

国際医療福祉大学 臨床医学研究センター

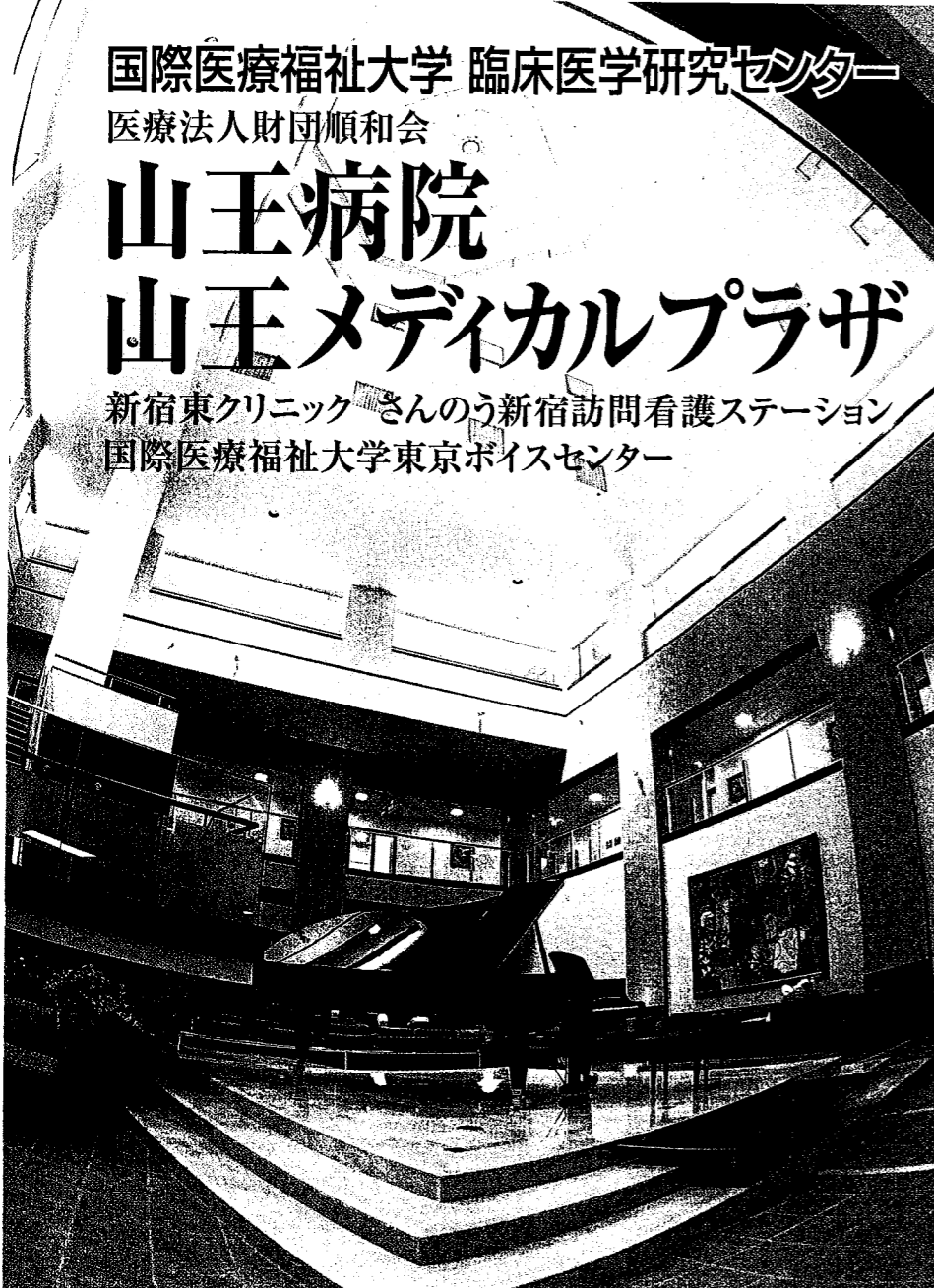
医療法人財団順和会

# 山王病院

# 山王メディカルプラザ

新宿東クリニックさんのう新宿訪問看護ステーション

国際医療福祉大学東京ボイスセンター



## 山王病院

内科/消化器科/胃腸科/循環器科/神経内科/  
内分泌・代謝/外科/消化器外科/乳腺外科/  
肛門科/脳神経外科/リウマチ科/血液内科/  
血液外科/アレルギー科/小児科/産婦人科/  
整形外科/耳鼻咽喉科/泌尿器科/皮膚科/  
眼科/放射線科/リハビリテーション科/麻酔科/  
歯科/歯科口腔外科/小児歯科/矯正歯科/  
インプラント科

- リプロダクションセンター(不妊症治療)
- 予防医学センター(人間ドック・健康診断)
- 呼吸器センター(呼吸器内科・呼吸器外科)

## 山王メディカルプラザ

内科/消化器科/循環器科/内分泌・代謝/  
耳鼻咽喉科/精神神経科/人工透析センター/  
オンコロジーセンター/女性腫瘍・内分泌センター/  
神経科/歯科/健康診断/訪問診療

- 国際医療福祉大学 東京ボイスセンター

## 山王病院

<http://www.sannoclc.or.jp>

〒107-0052 東京都港区赤坂8-10-16

TEL03-3402-3151

「青山一丁目」駅4番出口より徒歩4分

「乃木坂」駅3番出口より徒歩4分

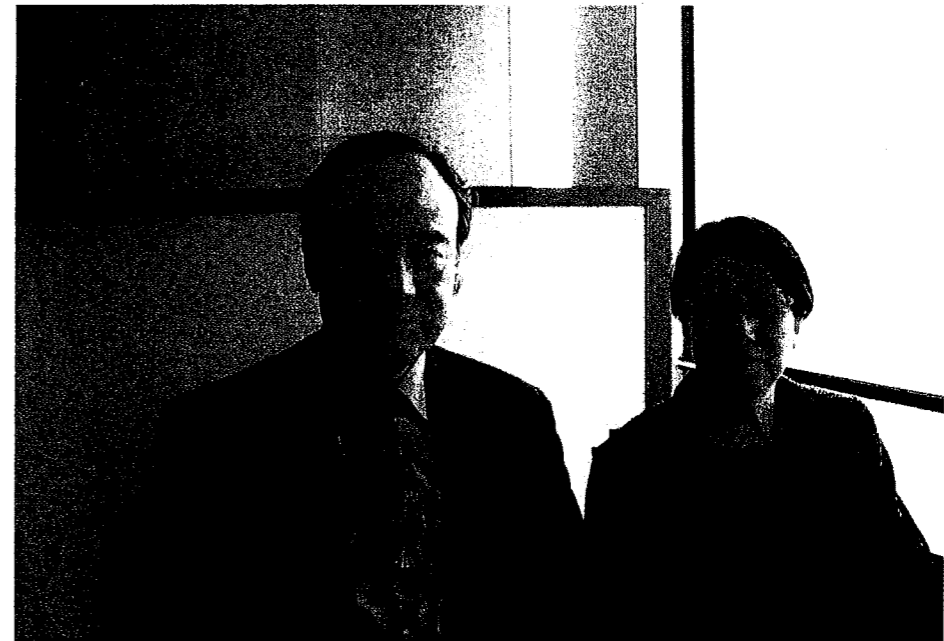


TOKYO FULLBRIGHT ASSOCIATION

東京カブライズ

# NEWSLETTER

No.17  
December  
2004



# 国際医療福祉大学

入試事務室 TEL. **0287-24-3200**

〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2600-1

URL <http://www.iuhw.ac.jp>

2005年度開設

薬学部 薬学科

リハビリテーション学部 理学療法学科/作業療法学科 [福岡県大川キャンパス]

保健学部

看護学科/理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科/視機能療法学科/放射線・情報科学科

医療福祉学部

医療経営管理学科/医療福祉学科(介護福祉士コースあり)

大学院

医療福祉学研究科

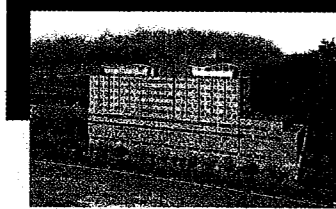
修士課程

保健医療学専攻・医療福祉経営専攻

博士課程

保健医療学専攻

附属・関連臨床実習施設



国際医療福祉大学附属熱海病院



国際医療福祉大学クリニック



国際医療福祉病院



山王病院

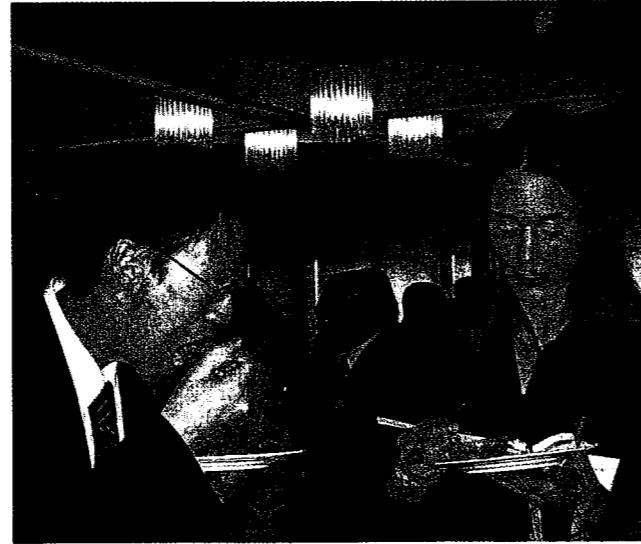
★2005年3月、東京都港区に附属三田病院(仮称)を開設予定!



総会でのスナップ



グランディエー歓迎会



明石 康氏 講演

「イラク・国連・日本」(抄)

＜明石康氏 プロフィール＞

1954年 東京大学教養学部卒業  
 1955年 バージニア大学大学院、  
 フレッチャー・スクールフルブライター  
 1957年 国連入り（日本人初）、国連広報担当事務次長、  
 軍縮担当事務次長、事務総長特別代表（カンボジア、  
 旧ユーゴスラビア）等歴任  
 現 在 スリランカ平和構築及び復旧・復興担当日本政府代  
 表、日本紛争予防センター会長、人口問題協議会会  
 長、日本国際連合学会理事長、群馬県立女子大学外  
 国語教育研究所所長、立命館大学大学院及び東洋英  
 和女学院大学大学院客員教授

私はフルブライト留学生として、1955年にバ  
 ジニア大学に入り、国際関係の修士号を取りまし  
 た。それからフレッチャー法律外交大学院でPhd.  
 を取ろうと思ったのですが、1956年に日本が国連  
 に加盟し、国連事務局から日本人の政務担当官が  
 ほしいということで、途中でフレッチャースク  
 ールをやめて、日本人第1号として国連で仕事を始  
 めることになりました。

イラク暫定政権と国連 イラクの情勢は今非常に  
 悪くなっています。アメリカも当初の目的を達成  
 できないどころか、ますます深い沼に入り込んで  
 いくようです。その中で、アメリカとイギリスが  
 新しい共同決議案を国連安全保障理事会に提出し  
 採択されました。主権は6月30日に暫定占領当局  
 (CPA) からイラク暫定政権の手に渡されることにな  
 りました。

来年の1月31日までには国民議会の選挙を民主  
 的な、自由な選挙で行うこともタイムテーブルに  
 入っています。この決議案で顕著なのは、国連の  
 特別代表であるブラヒミさんの役割が極めて大き  
 いことです。ブラヒミさんを私はよく知っており  
 ます。元アルジェリアの外務大臣で、ハイチやア  
 フガニスタンの国連特別代表を務め、国連の中  
 では、ずば抜けた分析能力・交渉能力を持った、す  
 ばらしい人だと思います。

国連の役割は、政治面では大きく、将来、復

興・復旧面でも大きくなっていくでしょう。しか  
 し、軍事面では多国籍軍に頼らざるを得ない状態  
 です。昨年8月末、バグダッドで、国連事務所の  
 あるカナルホテルが爆破されて、国連事務総長特  
 別代表をしていたセルジオ・デメロと、その部下  
 20名近くが亡くなりました。デメロはブラジル出  
 身で、カンボジアでも旧ユーゴスラビアでも、私  
 の補佐の1人として活躍してくれた人物です。国  
 連はイラクの状態が不安定ですから、きちんと安  
 全を保てる保障がないとイラクには出て行かない  
 ということになっています。

国連と大量破壊兵器 今回のイラク戦争は、1991  
 年の湾岸戦争とはかなり性格が異なります。湾岸  
 戦争はイラクが明確な形でお隣のクウェートに侵  
 略行為を行い、安保理はこぞって湾岸戦争を承認  
 し、支援しました。残念ながら、今度のイラク戦  
 争では、そのような歩調の一致は見られないまま  
 に戦争が始まりました。わが国でも意見が割れて  
 いるのは皆様もご存じのとおりですが、私はこの  
 戦争をアメリカが始めたのは賛成できるとして  
 おります。

その理由の一つは大量破壊兵器の問題です。核、  
 核兵器、生物兵器、化学兵器を、テロリストが手  
 にした場合、非常に多くの市民が殺傷される危険  
 が出てきました。

大量破壊兵器は今のところ発見されておりませ  
 ん。私は1991年湾岸戦争直後に、国連の軍縮担  
 当事務次長を務めており、当時、国際原子力機関の  
 事務局長ハンス・ブリクスと、国連の査察委員会  
 の委員長ロルフ・イケウスと3人で、バグダッド  
 に飛びました。われわれは、国際原子力機関の査  
 察がすでに行われていた施設と同じ屋根の下の壁  
 一つ向こうに、大規模な秘密ウラン濃縮施設があ  
 ることを発見しました。明らかに核兵器製造を秘  
 密裏に行っていたという証拠が見つかったのです。  
 ほかに化学兵器、生物兵器の製造と保有の証拠  
 が見つかりました。サダム・フセイン政権は、こ  
 のような兵器を作っていましたし、イランとの

戦争で使い、自国の内部でも北部のクルド族に対して、大変無残な形で使用しました。

湾岸戦争後も国連の査察委員会はイラク国内で査察を続けておりました。サダム・フセインは大量破壊兵器が全くないという報告を国連に出しておりませんでしたので、このような大量破壊兵器をフセインが持っているだろうと、国連が疑問を持ったとしても当然です。

ところが、米英軍がイラクの国内を探したのですが、このような兵器が見つかりませんでした。オーストラリアのトレバー・フィンリーという私の尊敬する軍縮の専門家を含め、国連の査察関係の専門家は、一つの仮説を出しています。サダム・フセインは、それまで持っていた大量破壊兵器を1998年ぐらいに破壊してしまったのではないか、そのことを国連に報告しないで、まだ持っているかのような姿勢を示すことによって、アメリカその他から攻撃がないように、脅かしていたのであろう、というのです。私もそのように思っています。

また国民の多数を恐怖と圧政によって支配する政権に対する人道的介入という観点からも、戦争を行おうと考える国が出てきたとしても不思議ではありませんでした。中東地域全体の平和と安全という見地からいっても、石油資源の安定的な供給という点から見ても、イラクのような軍事力を持った政権は、中東地域の平和にとって思わしいものではなかったのです。

このように大量破壊兵器、抑圧的な政権の性格、中東の平和といった三つの観点から見て、イラク戦争が安保理の十分なサポートなしで行われたとしても、その事情は理解できるというのが私の主観的な考えです。

**アメリカのイラク戦争** しかし、アメリカの戦争のやり方はいかにもまずかったと思います。国際政治の常識では、戦争に勝利するよりも、戦後をきちんと処理する方が難しいことは、私自身、カンボジアPKOでも経験しました。戦後処理にあたって、アメリカがイラクの軍と警察を全面的に武装解除したのは、乱暴すぎたと思います。サダム・フセイン政権の残党を外科手術したあとは、

軍と警察の大半は残すべきだったでしょう。

アメリカは20世紀の100年間において、世界各地で約16ヶ所に介入しております。カーネギー国際平和財団の分析によりますと、その16の国で、人道的観点から、民主政権を打ちたてるために、理想を持って介入したけれども、そのうち成功した例はわずか4例にすぎない、それは戦後の日本とドイツとパナマとグラナダということなのです。

戦前日本には議会政治の一時期がありましたし、ドイツにもワイマール共和国の一時期が、ナチ出現の前にありました。パナマとグラナダはアメリカが民主化を導入した例証として挙げるには貧弱だと思います。民主主義の導入は、20世紀から21世紀にかけての大きな理想だと思いますが、それをアメリカが一方的に導入するのは、成功例も少ないし、犠牲も大きいわけです。イラクで行うことになったら、相当の準備と覚悟が必要だし、国際的な幅広い支持があって初めて成功することを、アメリカの政策当局者は知るべきだったと思います。

アメリカはODAの約40%を、NGOを通じた支援活動に使っております。政府の支援もありますが、もっときめ細かな、地に足のついた小型のプロジェクトは、NGOが得意とするところなのです。NGO活動は、これから特に日本にとっては必要なことだと思います。しかし、私は善意のボランティア活動と、NGOのプロとしての活動を混同してはいけません。欧米のNGOは、アメリカの「ケアー・インターナショナル」、イギリスの「オックスファム」、フランスの「国境なき医師団」など、何万人もの人員を擁し、世界数十カ国で大規模な活動をしています。どれくらいの危険があるかについても、情報を集め、危機が起きたときの対応措置も考えながら慎重に行動しています。そのようなことを、わが国のNGOも身につけないといけません。自分が善意で行動しているのだから、相手は理解してくれるに違いないという甘えを持つのは危険です。

私は現在、スリランカの平和構築と復旧・復興のための日本政府代表をしています。スリランカでは約20年間にわたって、南部のシンハラ系の仏教徒と、北部と東部に住むタミール系の、主とし

てヒンズー教徒の間はかなり血生臭い紛争が繰り返され、約6万5,000人の犠牲者が出ております。そのような所でも、欧米のNGOは平気で仕事をしておりまして、国連の援助機関であるUNDPの職員も仕事をしておりまして、残念ながら、わが国のNGOの姿は見えませんでした。停戦協定ができたのは2年前ですが、その時も日本のNGOの姿は見えませんでした。私はぜひとも日本のNGOも姿を見せてほしいと思ったものですから、私が顧問を務めているアムダ(AMDA)に頼んだところ、巡回診療を開始してくれました。これは非常に感謝され、成功したと思います。

そのほかにも、ブリッジ・ユーシア・ジャパンというNGOが、北部の「タミール解放の虎」の支配地域で、細々とですけれども、いい仕事をしています。日本だけに通用するような、孤立的平和主義と、日本の国内で安全であればいいという考え方は、これからのグローバル化した世界では、許されないと考えております。

**日本とPKO** 国連PKOは、1992年のカンボジアPKOに自衛隊が参加したのが、わが国としては初めてです。その後、東ティモールにも1個大隊を出し、来月帰ってきます。いわゆるPKOの原則である、当事者全部の合意という原則、国連があくまでも中立的に行動するという原則、武器使用は自衛のために必要最小限に止めるという原則は、90年代後半以来、激しくなった内戦の中では、貫徹できなくなっています。

ブラヒミさんがまとめたブラヒミレポートの言う通り、以前より強力なPKOが必要な時代になってきていると思います。

カンボジアPKOのときは、わが国と同じく新入生として、若葉マークで参加したドイツは、今や第3世代のPKOといわれる、アフガニスタンの治安支援部隊にも参加しております。イラクではアメリカに盾突いていますが、隣のアフガニスタンでは約1千人のドイツ人たちが、PKOならびに多国籍軍に参加しているのです。わが国はちょっとドイツに水をあけられたという感じがあります。

**日本の多国籍軍参加** わが国もそろそろ多国籍軍への参加を考えていいと思います。国際平和協力

懇談会の提言の中でも、この問題で議論が沸騰しました。私は座長として、国連決議がある多国籍軍への参加や、医療、輸送、通信のような後方支援的ロジスティックスの任務への参加は、コンセンサスが得られると思ひ、まとめました。朝鮮半島を巡る北東アジアでは、国連や国連安保理のお墨付きのない多国籍軍であっても、目的・状況次第では参加する可能性も考えるべきではないでしょうか。

**ソフトな安全保障** 結論としまして、日本のこれからの外交は、ますます多角的に、多層的に展開していかなくてはならないと思います。日米関係を基軸に考えるという基本のうえに、アジアをもっと重視するという観点を付け加えていくことが必要だと思います。国連重視ももちろん大事です。安全保障にはハードな安全保障と、ソフトな安全保障があります。アメリカを中心にしたハードな安全保障も無視することは許されませんが、日本が最も得意とするソフトな安全保障、つまりODAや文化外交、信頼醸成、技術協力などをもっとやるべきだと思います。

9.11以来、先進国は大体ODAを増やしており、5年間もODAを減らし続けているのはわが国だけです。国連分担金も払いすぎという声がありますが、私は大変悲しいと思っています。ODAの総額では、日本はアメリカに次ぐ2番目ですが、一人当たりしてみると少ないのです。国連はGDPの0.7%をODAとして出すべきだと決めております。スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、オランダといった国々は、0.7%を突破しております。わが国はたった0.21%くらいで、アメリカは0.1%ちょっとというところです。総額だけをとれば立派ですが、一人当たりしてみると大したことはありません。国連の通常予算の分担額も、一人当たり700円くらいですが、年額その10倍の7,000円くらい払ってもいいと思う方がたくさんおられるのではないのでしょうか。

これからはより活発な、よりダイナミックな外交、政府だけに任せない、シビリアンやNGOも含めた、迫力のある、顔の見える外交を目指すべきではないか、ということを経験的に申し上げて、私の話を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。